

# 日本文学科 現2・3年生対象 令和4年度開講「演習」仮シラバス

## 【日本語学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

開講学年	応募科目名	担当者	曜日	時限	ページ
3・4年	日本語学演習Ⅱ	小田 勝	月	6	2
	日本語学演習Ⅱ	富岡 宏太	月	4	2
	日本語学演習Ⅲ	吉田 永弘	水	6	3
	日本語学演習Ⅲ	諸星 美智直	木	3	3
	日本語学演習Ⅲ	新任教員	火	6	4

# 【日本語学演習Ⅱ】

【科目名】日本語学演習Ⅱ	【開講学年】3・4年	【曜日】月
		【時限】6
【教員名】小田 勝	【登録番号】0000	
【テーマ】古典文法の研究、古典文解釈法の研究		
<p>(演習内容)『源氏物語』(今年度は帚木巻)を正確に読解する。本文について、機能語(助詞・助動詞)の役割、各語句の係り受け、構文、敬語等について明示的な説明を与えた上で、その結果としての完全な直訳を作成する。明確に説明できない箇所(そのような箇所は相当多い)は問題点であるから、索引を用いて類例を集めたり、諸注・先行諸説にあたったりして、充分調査・研究すること。受講者が一定の範囲を分担し、その発表に基づいて演習を行う。発表者のほか、指定したコメンテーターを置く。発表の前週までに資料を配付するので、受講者全員が資料を検討して授業に臨んでもらいたい。</p>		
(評価方法) 発表 50%、レポート 50%。		

【科目名】日本語学演習Ⅱ	【開講学年】3・4年	【曜日】月
		【時限】4
【教員名】富岡宏太	【登録番号】0000	
【テーマ】中古語の研究		
<p>(演習内容)</p> <p>源氏物語を主な資料として、中古語の研究を行う。</p> <p>最初に教員が調査や発表の方法について数回にわけて解説した後、受講生による問題設定、調査・考察、発表を行なう。</p> <p>この演習では、主に、文法形式や語彙、類義表現、言語行動などについて、以下の方法を中心に考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中古語の複数の形式や表現をくらべることで、それぞれについて明らかにしていく方法</li> <li>・中古語と現代語とにおける類似形式や表現を対照することで、両言語における特徴を明らかにしていく方法</li> </ul> <p>以上を通して、比べて考えることの大切さや、さまざまな「日本語」の一つとしての中古語の特徴に、気づけるようになってほしい。</p>		
(評価方法)		
発表内容及び質疑応答の積極性 (50%)、レポート (50%)		

# 【日本語学演習Ⅲ】

【科目名】日本語学演習Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】水
		【時限】6
【教員名】吉田永弘	【登録番号】0000	
【テーマ】中世日本語の研究		
(演習内容)		
<p>キリシタン資料の『天草版平家物語』をとりあげて、中世末期の日本語を学習する。はじめに担当教員が演習の方法を解説した後、各自担当箇所調査・報告を行う。発表を経て、問題点をさらに追究し、レポートにまとめる。</p> <p>以上の作業を通して、中世日本語が古代語から近代語への流れの中にあることを理解しながら、日本語の史的研究の方法を身につける。あわせて、発表する力・レポートを作成する力を養う。</p>		
(評価方法)		
発表 50%、レポート 50%。		

【科目名】日本語学演習Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】木
		【時限】3
【教員名】諸星美智直	【登録番号】0000	
【テーマ】ビジネス言語学（文書・会話の語彙・語法）と近代敬語の研究		
(演習内容)		
<p>少子化とグローバル化により異文化共生の時代となりつつある現代社会で生き抜くためには、教職に関しては国語教育と日本語教育の両方に対応できる人材、企業については国際交流を視野に入れた経済活動に役立つ言語能力を習得することが就職力を強めることになる。そこで、[前期]は、現代のビジネス文書及び経済小説・企業ホームページを資料として、ビジネス敬語・語法・語彙を中心に①通時的、②共時的、③対照言語学的、④ポライトネスなどの方法によって、例えば「～いただけますようお願い申し上げます」のような揺れ動くビジネス敬語の実態を解明する。[後期]は近代日本語（近世～現代）の研究テーマの概要を述べた後、近代の小説・速記録・日本語教科書等を資料として、近代敬語の変遷を分析する。日本文学科の就職先としてサービス・卸・小売りが多く、また就活支援に力を入れている金融・製造・公務員等の進路に益することを考慮して、敬語研究を重視するとともに実践的な業界・企業研究を兼ねた就活に強い「ビジネス言語学」の構築を目指している。これは同時に日本語教育学における学習者の主要なニーズでもある。前・後期とも、講座担当者による解題と先行研究の紹介のあとは、受講者による研究発表の形式で進めて行くので、活発な質疑応答の場となるよう望む。なお、随時、日本語学・日本語教育学の関連学会の情報を紹介する。卒業論文の履修者には履修を勧める。</p>		
(評価方法)		
発表・質疑（20%）・単位レポート（80%）による。		

【科目名】日本語学演習Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火
【教員名】新任教員	【登録番号】0000	
【テーマ】現代日本語（方言を含む）の文献講読と調査研究		
<p>(演習内容)</p> <p>本演習では、現代日本語（方言を含む）を取り巻くトピックをテーマに、研究対象の設定、先行研究の探索と分析、データ収集、分析法など、言語研究の方法論一通りを実践的に学習する。前期は論文講読を通し、受講者が発表を行ない、議論する。後期は各自が設定したテーマに基づき研究発表を行なう。発表後は、発表を踏まえてさらに論を深め、必要に応じて調査を行ない、自分の意見をまとめてレポートを作成する。以上により、研究の方法論を習得するとともに、文書作成能力を養う。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>発表内容とレポートによる総合評価。発表は前・後期各1回ずつ行ない、各期とも報告内容をレポートにまとめて提出する。</p>		